

マスメディアによる生活廃棄物関連環境情報とその有効活用
○石久保鈴子 渡辺聖子 渡辺丕俊 (東京家政大)

目的 近年、環境関連問題における環境報道の質、報道量及び報道体制の適切な対応とその重要度が、1992年のリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」以降、地球環境問題のみならず生活都市型環境問題として、生活全般にかかわるものと認識されはじめ、益々増してきている。特に今日の環境問題の多くは、多数のファクターが複雑に絡み合いながら始動している巨大な経済社会の中で生じており、それらを認識し理解するためにはより適切な環境に関する情報が不可欠である。そこで本研究では、環境関連問題とそれらに関する情報の伝達の仕方や表現方法等について、どのようなメディアによるのかを探究するため、メディアから得られる生活廃棄物の回収、処理等に関する環境情報問題及びその現状について、調査、分析し、今後の課題についても検討した。

方法 1993年及び1996年における生活廃棄物関連記事を(株)日経データのNEEDS-IRスポット検索システムにより抽出し、それらを日本電気(株)製コンピュータ PC-9821Xaとマイクロソフト製ソフト Windows95、Accessを用いて分析した。

結果 生活廃棄物関連記事の総件数は1993年では763件、1996年では732件であり、生活廃棄物関連の処理過程において、回収、処理、リサイクル、再生品、情報等11項目に分類され、1996年にマテリアルサイクル、焼却・埋立処理件数は減少し生分解処理件数は増加を示した。